

第2回と第3回の成果を踏まえ、次回（第4回）は玉津学区を活性化する取り組みを考えます

第2回 学区の特徴とたからもの

特徴

 ①人のつながりの強さ

 ②歴史ある

 ③豊かな自然と

 ④地域の生活・産物・その他

たからもの

- 助けあいの活動
 - ・子育てサロン、高齢者サロン、敬老会、子ども文庫など
- 集いの場
 - ・各地区の自治会館・集会所、地域総合センター、お寺・神社など
- 人が集う仕組み
 - ・文化祭、ラジオ体操、学区民の集い、同年会、学区民大運動会など
- 助けあいの仕組み
 - ・報恩講・伊勢講、無情講などの講の仕組み、火事見舞いなど
- 祭り・行事
 - ・草木祭、先燈、日待ち、灯明あげ、長刀祭り、左義長、夏祭り、盆踊り、秋祭り、地蔵さんなど
- 神社仏閣
 - ・東・西別院、若宮神社、武道天神社、釈迦堂、少林寺など
- 湖岸の歴史と文化の記憶
 - ・えり市・えり寅、湊屋、廻船問屋、田舟、えり漁法など
- 伝統的な仕事や言い伝え
 - ・石田の七曲り、狐塚、伊賀坊、一本こうじ、箸塚、わら細工など
- 赤野井を中心とした放射状の道路
 - ・守山道、野洲道、佐々木街道など
- くらしや仕事を物語る遺物
 - ・諏訪屋敷、林邸、河村邸、美濃部屋敷跡、赤野井港 など
- 都市施設・福祉施設
 - ・守山市民運動公園、守山中学校、公園、明見の郷公園、守山コミュニティ防災センター、障害者施設、福祉施設など
- 水に関わる自然、緑
 - ・六条堤、各種河川、ホタル、池、鯉、神社やお寺の緑 など
- 特産物・その他
 - ・矢島かぶら、鮎寿司、守山メロン、玉津大発見（玉津小）など

第4回 玉津学区活性化の取組

「たからもの」と「まちづくりの方向」を関連づけて、どんなことができるか、何をしたら学区が元気になるか、考えてみてください！
これは例です、参考にどうぞ。

【活用するたからもの】
一本こうじ、赤野井湾屋形船 など

【活性化の取り組み】
たからものを活かした学区を結ぶイベントで住民が交流し、外からも人を集める
・一本こうじの相撲大会
・屋形船ツアー など

【活用するたからもの】
赤野井湾、漁業

【活性化の取り組み】
赤野井の漁業を観光資源化し、漁業を盛り上げる
・琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水運遺構を整備
・琵琶湖の魚の地産地消促進 など

第3回会議ではすでにこんなアイデアが出ています。これらをもっと具体的にすることも考えましょう！

＜第3回会議で出して頂いた取り組み＞

- ・ 伝統文化の後継者づくり
- ・ 地区を越えた共同神事の検討
- ・ 地区の伝統行事のPR
- ・ 地区の若者の声を反映した行事運営
- ・ 1次産業（農業・漁業）の6次化
- ・ 地産地消の促進
- ・ 体験型観光のプログラムの検討
- ・ 観光漁業の検討
- ・ 地区計画の検討・策定
- ・ 地域の生活慣行の見直し
- ・ 公共交通サービスの確保
- ・ 安心できる防犯安全活動の充実
- ・ 地域の情報発信の仕組みとコンテンツづくり
- など

第3回 学区の課題とまちづくりの方向

まちづくりの方向

- 伝統ある行事を伝え、みんなが共感できるまちづくり
- 交流を活かした農業漁業が元気な産業づくり
- 新しい人が住みたい、入りやすいまちづくり
- 赤野井湾を中心とした水の自然ネットワークの再生
- 誰もが安全で安心に暮らせるまちづ

課題

- 少子高齢化・人口減少
 - ・ 高齢者の増加
 - ・ 子どもの減少
 - ・ 若者層の流出
- 地域の伝統・行事・活動の担い手不足
 - ・ お祭りの参加者の減少
 - ・ 少子化で伝統文化・行事が守れない
 - ・ 神輿をかつぐ人がいない
 - ・ 自治会単位の活動がしにくい
 - ・ 地域行事への若者の参加が少ない
- 人と人のつながりの希薄化
 - ・ 親戚・近所づきあいの希薄化
 - ・ 個人主義重視の社会風潮
 - ・ 助けあい精神・連帯意識の希薄化
- 地域産業の衰退、賑わいがいない
 - ・ 地区に買物する所がない
 - ・ 商売をやっていけない
 - ・ 1次産業（農業・漁業）の後継者不足
 - ・ 農業志向の若者が少ない
- 新しい住民が転入しにくい
 - ・ 市街化調整区域で住宅をつくれな、転入できない
 - ・ 外来者は空き家・住宅を購入できない
 - ・ 古い伝統・習慣を押しつけられる負担感
 - ・ 新住民が共存できる意識・環境が必要
 - ・ 過度なつき合いの習慣は控え改める
- 川や琵琶湖等の自然が失われている
 - ・ 里内の川に水が流れていない
 - ・ 赤野井湾に外来水性植物が増殖
 - ・ 赤野井湾の汚染
 - ・ 圃場整備で田・道はよくなったが・・・
- 生活環境の整備・公共交通が不便
 - ・ 憩える公園の整備が必要
 - ・ 街灯が少なく、夜、危険である
 - ・ 車がないと移動しづらい
 - ・ 自動車の増加による事故の発生
 - ・ 集落内の道路の改修が必要

(注) 第2, 3回のワークショップ会議で記入されたものから抜粋